

どこでもドアのかぎ 8
～ 飯田規和先生追悼号～

目次

岸井勇雄	(学長)	2
石本勝見	(生活福祉専攻)	2
宮西邦夫	(食物栄養専攻)	3
後藤岩奈	(国際教養学科)	3
笠原賀子	(食物栄養専攻)	4
佐藤恵美子	(食物栄養専攻)	5
植木信一	(生活福祉専攻)	6
水上則子	(国際教養学科)	7
石川伊織	(国際教養学科)	8
小谷一明	(英文学科)	15
石垣健二	(幼児教育学科)	17
福嶋秩子	(英文学科)	19
山岸明浩	(生活科学専攻)	20
木佐木哲朗	(国際教養学科)	20
石栗彩子	(英文学科)	21
村屋勲夫	(国際教養学科)	22
黒田俊郎	(国際教養学科)	24
追悼 飯田規和先生		25
第7集 アンケート結果		59
アンケートのお願い		63



学長 岸井勇雄

子育て小事典

岸井勇雄 著
エイデル研究所

自画自讃ということばがありますが、自著自讃と言われてもいいから、皆さんに読んでもらいたい本です。育児書の中には、安易なマニュアルや古い学説、思いつきの主観など目に余るものが少なくありません。本書は最新の研究成果や思想に立脚した理論的具体的な実用書として専門家にも一般にも好評を得ています。項目の数は小事典ですが、内容は詳しくわかりやすい大事典ですよ。



生活福祉 石本勝見

プロカウンセラーの聞く技術

東山紘久 著
創元社

「情報の発信者（話手）は受信者（聞手）の反応が返ってこないことには、相手が情報をどう思ったかわからない。受信者は情報の受け取りも放棄も自分の気持しいです。いらなければ捨てることさえできる。」（序から）

相手の言いたいことを「聴く」には、どうしたらいいか？ 実際的でわかりやすく述べられています。



食物栄養 宮西邦夫

怖い体脂肪をどう減らすか

片岡邦三 著
KAWADE夢新書

久し振りに精読した本です。

体重計や鏡をみて、一喜一憂しているあなた。実は、問題なのは体重や外見ではなく「体脂肪率」・・・とても興味深い内容です。是非読んでみて下さい。



国際教養 後藤岩奈

日朝関係の克服

姜尚中 著
集英社新書

北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）を巡って様々な問題がマスコミで取り挙げられている。今後、日朝関係をより良い状態にするために、どういう方向を目指すべきか。この問題を考える上で、朝鮮半島を巡る各国の第二次世界大戦後の政治、経済、軍事、外交の流れを冷静に見てゆく作業が必要ではなからうか。その作業に適した文献かと思われる。

混沌からの出発

福永光司 五木寛之 著
到知出版社

中国古代の老荘思想の研究者福永光司氏と作家五木寛之氏の対談。福永氏は混沌とした状態、時として混乱し、対立し、矛盾する事物の中に生命(力)を見い出してゆく。混迷する現代社会にどう臨むのか？今日的な課題も述べられる。



食物栄養 笠原賀子

子どもの栄養・食教育ガイド

坂本元子編
医歯薬出版

本書は、幼児をもつ母親や児童・生徒が日常生活の中で「栄養・食」に関する疑問や不安を抱いている項目を取り上げ、それらを解消させるための学問的な裏づけを試みるとともに子どもたちの理解を容易にするための教材の活用とその使い方について解説したものである。

子どもの栄養教育に携わる栄養士・管理栄養士や幼稚園教諭、保育士必読の書。教材の事例は、見ているだけでも楽しい！！



食物栄養 佐藤恵美子

3 食食べてきれいにやせる

菅原明子 著
高橋書店

沢山のダイエット法がブームになっておりますが、長続きして、つらくない、健康を壊さないダイエット法を保健学博士の菅原先生が、イラストいりでわかりやすく教えてくれます。そのためにはバランスのとれた食べ物（バランスフード）を食べることです。私たちは常にたくさんのストレスをかかえながら生きております。微量なビタミンやミネラルのバランスがよくなれば、ストレスにも強くなります。ダイエットにかぎらずいつも明るく、バネのある生き方ができたらいいですね。バランスフードとはなんでしょう。是非本を開いてみてください。

素材を生かした新・ふるさとの味

(社)日本栄養士会 全国地域活動栄養士協議会編
文園社

全国の気候風土ではぐくまれた地場産物、新鮮な食材を活用して、おいしく食べるための先人の工夫した食べ物が食文化として伝承されている料理を、ヘルシーメニューとして紹介してあります。我が家のお袋の味を次世代を担う子供達にも伝え、味覚の形成と健康づくりに役立てるのにとてもよい本です。献立作成の時に参考にしてはいかがでしょうか？

開けごまクッキング

岩崎園江 著
創森社

小さなごま粒には大きなパワーがあり、生活習慣病や骨粗鬆症の予防、細胞の若返りなどに威力を発揮します。身近でおいしく安価ですからふんだんに使うことのできる魅力的な素材です。岩崎先生は多くのごま料理を発明されております。バラエティなゴマ料理の数々・・・にびっくり。毎日、ゴマを大さじ1杯食べて、健康で元気に過ごしましょう。



生活福祉 植木信一

働くこと育てること

落合由利子 著
草土文化

写真集でありエッセイでもある。「働くこと」「育てること」を通して、16通りの生き方が紹介されていて面白い。どの生き方も瞬間瞬間の積み重ねに今がある。どの瞬間にも真実がある。生きる姿に引き込まれていく。



国際教養 水上則子

お姫様とジェンダー

若桑みどり 著
ちくま新書

なじみの深い「シンデレラ」や「白雪姫」といったアニメ映画を題材にして、そこに登場するお姫様について、改めて考えてみよう、という本です。女子大での講義をもとにして書かれているので、収録されている受講学生のコメントには、みなさん自身の気持ちに近いものがあるでしょう。共感できる部分も、反発を感じる部分もあるだろうと思いますが、大切なことは、すべてを信じ込むことでも、すべてを否定することでもなく、自分がどう感じるかをきちんと見つめること、そしてなぜそう感じるのか、と考えることです。

西の魔女が死んだ

梨木香歩 著
新潮文庫

「泣ける本が読みたい」というリクエストがあったと思いますので、一冊挙げてみます。「西の魔女」は、主人公である少女の祖母のあだ名です。おばあちゃんの家で過ごした「魔女修行」の日々、少しだけ心がゆきちがったままおばあちゃんと別れてしまった悲しみ、そして・・・最後の5行が胸にしみます。少し痛いくらいに。



国際教養 石川伊織

家族革命前夜（家族革命イブ）

賀茂美則 著

集英社インターナショナル

家族の姿は今、劇的に変わろうとしています。それは後戻りできない趨勢だと著者は言います。少子高齢化とか、核家族化なんて、序の口です。あなたはどんな家族を理想と思いますか？ そして、あなたの現実の家族は？ 「家族についてあなたが何気なく知っている「常識（おもいこみ）」は虚構（ウソ）だらけ！」という帯の文章は、実に当たっています。これから来るはずの家族革命にそなえて、一読をおすすめします。

モダンガール論

斉藤美奈子 著

マガジンハウス

副題は「女の子には出世の道が二つある」。そして帯には「社長になるか社長夫人になるか。それが問題だ」。この本が暴露しているのは、明治以降の日本には、女性の「出世」に二つの道があって、バリバリのキャリアとして社長になるか、玉の輿に乗って社長夫人になるかということだったけれど、それは女性たちが進んで選んできたエリートコースではなくて、男社会から排除されてしかたなく選んだ道だ、という事実です。しかも、そうまでしてたどり着いた専業主婦というのが、実際は夢も何もない普通の生活でしかなかった、というオチまでついていきます。自分の人生をまっとうしたかったら、自分の力で生きられなくてはなりません。皆の衆、お覚悟は如何かな？！

お姫様とジェンダー

若桑みどり 著
ちくま新書

斉藤美奈子さんが雑誌や資料を駆使して暴露した、世間が女の子を騙す手口を、ディズニーのアニメとグリム童話の分析から明らかにした本。いつか王子様が現れて、結婚して、めでたしめでたし……という童話が語る女の子の「幸福」が、どれほど女性から生きる力を奪ってきたかがわかります。だいたい、「王子様」なんか来ないんです。女の子だって「お姫様」なんかじゃありません。そんな王子様をただ待つだけの生き方が、女性から力を奪います。力をつけようとする気力を奪います。それに、めでたしめでたしの結婚の後のつらかったり苦しかったりする生活のほうが長いっていうことを、童話は隠して語りません。夢を壊してごめんなさい。でも、これは本当なんです。ところで、若桑さんが本書21ページで紹介している「新潟県立短期大学での、ノルウェイの労働監督局顧問、EU男女機会均等諮問委員会ノルウェイ代表、男女平等オンブッドのミーレさんの講演」というのは、本学で2000年度に文部省の補助金をいただいておこなった「青年男女の共同参画セミナー」でお呼びした、クリスティン・ミーレさんの万代市民会館での講演のことです。詳しくは私のホームページをご覧ください。

お父さん、怒鳴らないで

毎日新聞家庭生活部編
径書房

毎日新聞の家庭生活欄で連載されているコラム「女の気持ち」「男の気持ち」に、昨年5月12日以降に投稿された「怒鳴る夫」をめぐる読者からの声を集めた本。男性たちはしばしば、女性はおしゃべりだけれども、まともな筋の通った話ができない、と馬鹿にします。でも、コミュニケーション能力がないのはむしろ男性の方ではないか？ ちゃんと言葉で説明して、自分の気持ちや要求を伝えればいいのか、それができないので怒鳴るのではないのでしょうか。上下関係でしか人間を見ないので、実社会では我慢しているけれど、お山の大将になれる自宅では威張りまくるのではありませんか？ 人事じゃないのです。皆さんも、自分のまわりの男性をよく観察してみましょう。時々怒鳴るような人は要注意です。

天才柳沢教授の癒セラピー

川寄克哲 + 山下和美 著
講談社

サイコセラピストが読む『天才柳沢教授の生活』。柳沢教授は論理的に考えて論理的に行動する、ちょっと困った人です。まわりにこんな人がいたら、それは困りますよ。ですが、教授は論理的なだけで血も涙もない人ではない。そこが、教授が好かれる理由なのでしょう。でも、やっぱり、教授の思考と行動は、普通の人とは「ズレ」てます。サイコセラピスト川寄さんは、そこが癒しの効果を生んでいるんだと分析します。教授は意図してずらしたり、ズレたりしているのではありませんが、意図しないこのズレが、袋小路で行き詰っている人と衝突して、袋小路を解消していく。それがこのマンガの面白いところなんだそうです。そうも読めるな、と思いました。原作者の山下和美さんと共著です。これはもう、原著者のお墨付きです。でも、本当にそれだけかどうかは、読んでみてから考えましょう。原作者が自分の作品を誤読してるかもしれませんしね。

横書き登場 日本語表記の近代

屋名池誠 著
岩波新書

目からウロコが落ちます。日本語では縦書き／横書きだけではなく、右横書き（下へ行移り）／左横書き（下へ行移り）／（下への）縦書き（左へ行移り）／（下への）縦書き（右へ行移り）の全部が可能で、そのうえ、書字の方向が変わっても文字自体は回転しないという珍しい言語なんですよ。この、「文字が回転しない」って何のことかわかります？ わからなかったら、まずは読んでみてください。

スタンウェイ物語

R.K.リーバーマン 著
法政大学出版局

ピアノが好きな人は読んでみてください。2001年の春に訪ねたニューヨークのスタンウェイのショールームには、昔作られた古いピアノがたくさん保存されていました。それらは全部、自由に弾かせてもらえます。新潟にも何台もあるし、世界中にたくさんあるスタンウェイのピアノですが、19世紀後半の創業以来の製造台数は50万台を超えた程度。ヤマハのピアノはもう500万台以上も作られています。今では大量生産の気配もあるスタインウェイですが、オーストリアのベーゼンドルファーや旧東ドイツのベヒシュタイン同様、どうしてどうして、まだまだ手作りの味を残しているようなのです。

大人は判ってくれない

野火ノピタ = 榎本ナリコ 著
日本評論社

著者が、「野火ノピタ」の名前で同人誌にマンガを描いて頃を書いたマンガ・アニメ評論を集めた本。著者は、あの頃の自分を「一オタク」であったと言います。いま、榎本ナリコの筆名で『チカラの在り処』等の作品を出版して、著者プロフィールには「榎本ナリコ、マンガ家、代表作」と書けるようになったけれども、でもそれは「私の今の立場であって、今これを書いている私の心ではない」……著者は今でもやはり自分は「一オタク」なのだと言います。では「オタク」とは何か。著者はD・レインを引用して、世界と自分との間に二重の断層を抱えた者だと規定します。碇シンジや綾波レイがそうであるように、自分を探している者、それがオタクだ、と。だからオタクであることは他人には秘密にされなくてはなりません。オタクであることを「カミング・アウト」するのは大変なことなんです。身に覚えのある人、いるでしょ?! でも、私を含めて、大勢の人がそうなんです。身に覚えのある人は必読(ただし、こっそりネ)

はじめての雅楽

笹本武志 著
東京堂出版

雅楽の入門書。でも、「聴く」ほうの入門ではなくて、なんと演奏するほうの入門書です。教則本です！！ ですので、付録のCDは「雅楽名曲・名演集」ではなくて笙・箏・龍笛を演奏するための練習教材！ おもしろい入門書です。とはいえ、楽器がなくては始まりません。でも、笙は11万円もしますが、箏なら一式で9000円くらいだし、龍笛は7000円くらいなんですって。やってみるのもいいでしょう。でも、教材として『さくらさくら』はともかく、『仰げば尊し』やらドヴォルザークをとりあげるっていうのは、やめたほうがいいような気がします。だって、間が抜けてるんだもん。

大江戸透絵図 千代田から江戸が見える

北原進監修 + 千代田区江戸開府400年記念事業実行委員会
丸善株式会社

昨年は江戸幕府が開かれて400年。それを記念して千代田区が作った本。CD-ROMに収められた地図は、同じ場所の地図が現代のものや江戸時代のものと重ね合わせになっていて、町名と大名の名前から検索できます。マウスを操作すると、江戸時代を示す地図に現代の地図がだんだんと重なってきて、最後には現代の地図に変わるのがおもしろいです。こうしてみると、江戸の中心部の道や地割は今と大して変わっていないのにびっくりします。江戸時代の地図には、フリーハンドで描かれた歪んで不正確だけれど携帯に便利な「切絵図」と、測量に基づいて作られた精密だけれど使いにくい「大絵図」や「分間図」がありました。好まれたのが不正確な切絵図のほうだったというのが面白いところ。



英文 小谷一明

命こそ宝～沖縄反戦の心

阿波根昌鴻 著
岩波新書

沖縄に住むヴェトナム戦争の元軍人で、平和活動家のダグラス・ラミス氏が、近刊の著書で「スロー・ブック」の実践を提唱しています。そこでは、読者にたいしてゆっくり本を読むことを薦め、作者である自分にたいしては、歯ごたえのある内容を噛み砕いて読者に説くことを課しています。この「スロー・ブック」案に一部賛同する私は、ラミス氏の本ではなく、『命（ぬち）こそ（どう）宝』をお薦めします。農民である阿波根さんは、大地を相手に生活する人々の間には共通の感覚が生まれると言います。この親和力をもとに、伊江島の農民たちは日・米・沖にたいし乞食行進を行い、「きちんと話す」ことを求めています。この本および『米軍と農民』（岩波新書）で紹介される交渉の原則には、デモクラシーの原質、つまり阿波根さんの人柄が詰まっています。

日本三文オペラ

開高健 著
新潮文庫

この冬、知念正真作・演出の『人類館』（『沖縄文学選』岡本恵徳他編に所収）という芝居が約30年ぶりに大阪で上演されました。人種ショーが社会問題になった大阪人類館事件（1903年）を扱いつつ沖縄の歴史をコミカルに演じていく作品で、去年は事件から100年目という年でした。この劇の開演が夕方でしたので、それまで大阪をぶらついていました。まず生野区にある古本屋を訪ねた後、平野川、鶴橋の市場、JR環状線沿いの森之宮、大阪城公園、寝屋川を見物。これらは『日本三文オペラ』に登場する場所で、鉄くずを盗み出す通称「アパッチ族」が行き交った場所です。当時の面影が全くないコンクリート地帯を歩きながらも、この本に描かれている筋肉と知恵の躍動を想像してひとり興奮していました。広辞苑をひけば大阪アパッチのスラングの勉強にもなる貴重な本です。



幼児教育 石垣健二

「あと一球っ！」の精神史

- 阪神ファンとして生きる意味 -

井上章一 著
太田出版

昨年9月15日。ボクは、テレビの前でグッと涙をこらえていた。とうとうやってしまったのだ。四半世紀トラ一筋で生きてきたボク自身は、やはり著者と同様、阪神を自分のかかえた業とあきらめ、「一生、このつらい宿命といっしょに生きてゆく、そんな覚悟ができて(著者談)」いた。それなのに「どうしたらええんですか。業が業やなくなりかけているんですよ(著者談)」。

著者は、自虐的ともいえる阪神ファンの心理をまったく痛快に語ってくれる。ポロカスに阪神(球団)をのしりながらも結局は見捨てることができない、そんな人間の泥臭さ。巨人ファンにはとうてい理解できないだろう。ボクはそこに究極の愛の形をみてしまう。最近のにわか阪神ファンの皆さん!これがわからないというなら、ボクは、君を阪神ファンとして認めない。

14歳からの哲学

- 考えるための教科書 -

池田晶子 著
トランスビュー

「ワタシ的には、
と思うんだよネエ」。そんな言い方がはやる
この頃です。これって、他人との抗論を避ける便利な言い方ですが、
でも逆にいえば、他人の介入を一切はねつけてしまう身勝手な言い方
ともいえます。それってちょっと淋しい。やっぱり他人と同じ土俵に
たって話さねばならないときってあるのです。そんなときは、単に「思
う」だけから脱却しなくてはならない。そう、「考える」ということ
への転回が必要なんです。タイトルは「14才から」になっています
が、今からでもおそくありません。なにも難しいことではないのです。
多忙な日常をじっくりと見つめ直す。今そんな技法が求められている
のではないのでしょうか。



英文 福嶋秩子

教えることの復権

大村はま/苅谷剛彦・夏子 著
ちくま新書

これは教えることの意味を問い直す本です。単元学習という国語教育を実践した教師として有名な大村はまの授業を教え子である苅谷夏子がふりかえり、それをもとに大村と教育社会学者の苅谷剛彦と夏子夫妻が語り合っています。最近の学校は、教えすぎを恐れて、教えなさすぎなのでは、と指摘しています。最近の世論調査で、「どうしたら学級崩壊がなくなるか」という問いに対して、子どもは「授業が面白いこと」、教師は「人間関係がよくなること」と答えたというのを思い出します。子どもが集中するかどうかは授業次第ということですね。私も心しなければと思いました。

当事者主権

中西正司・上野千鶴子 著
岩波新書

人権問題に共通することは、いずれも「自立と共生」の問題であるということ、そして当事者がないがしろにされていることです。障害者が「自分のことは自分が決める」という声をあげたとき、自立の概念が変わり、社会が変わりました。高齢者、女性、不登校者、みな当事者です。問題はマイノリティの側にあるのではなく、社会の側にあるとしたら、どんなに社会が違って見えるか、読んでみてください。



生活科学 山岸明浩

養老孟司の〈逆さメガネ〉

養老孟司 著
PHP新書

昨年の夏の終わりに書店に行ったら、話題の「バカの壁」と一緒に並んでいました。まえがきにも書いてありますが、著者の教育についての試論で、「大学に行くとバカになる」、「大人の都合と子どもの都合」、「個性とは身体にある」など著者のユニークな視点で語られています。読んでみると著者の考え方に違和感を覚える部分もありますが、皆さんがいろいろなことを考えるきっかけになるとと思います。



国際教養 木佐木哲朗

人間にとって法とは何か

橋爪大三郎 著
PHP新書

社会学者の著者が、連続講座「人間学アカデミー」の中で、「法と個人」というテーマにそって公共性の問題を講義し、それを本にしたものです。公と私を対立関係にあるのではなく、同じメダルの裏と表のように考えるという指摘は興味深いと思います。法を通して社会のあり方を考えるわけですが、倫理や道徳と法の違いや、キリスト教・イスラム教・仏教などの宗教法、日本人と法の問題の歴史的変遷、民主主義と法の関係、国際法の問題など広範にわたりながらも、分かりやすく語られています。



英文 石栗彩子

侍女の物語

マーガレット・アトウッド 著
早川文庫

近未来のアメリカを描いた小説です。女性は「侍女」と呼ばれる出産の道具としての役割や「女中」「妻」「娼婦」などの役割に分類されて暮らしています。文字を読むことを禁じられ、外に出るときは全身を覆い隠し、人と会っても好きな話をすることはできません。どうしてこんな社会になっているのか、このような社会の中で、個人として生きることは可能なのか。徐々に明らかになっていく未来社会の姿は絶望的ですが、ありえない未来ではないと思わされるところがさらに恐ろしい小説です。同時に、SF的な外装の下で、現代の女性のあり方が深い洞察をもって描かれています。



国際教養 村屋勲夫

アメリカとアメリカ人

ジョン・スタインベック 著
平凡社ライブラリー

3月にこの大学を去るので皆さんに私の好きな本2冊の「推薦文」を書きます。いずれも文庫本なので気軽に読んでください。

「アメリカとアメリカ人」はジョン・スタインベックというノーベル賞作家が最後の作品として残したものです。アメリカという国は不思議な国ですね。世界中のさまざまな国からさまざまな人たちが集まってきて作り上げた人工国家なのに、そこに住み着いた人たちはしばらくすると、いかにも“アメリカ人”という顔つきになります。荒々しいけれどやさしい、暴力的だけれど民主主義の原点の国、矛盾の塊みたいな国柄なのです。アメリカのドル札紙幣やコインには「多様の統一」というラテン語が刻み込まれています。「多様の統一」はアメリカの人たちの共通の願いなのですが、この国では奇妙なことにこのモットーが実現している。その秘密をスタインベックは作家の目と愛情を持って執拗なまでに探求しています。

クルーグマン教授の経済入門

ポール・クルーグマン 著
日経ビジネス文庫

さて、もう一つ、おススメの本は「クルーグマン教授の経済入門」です。教授は1953年ニューヨーク生まれ、私より14歳も若い。アメリカではもっとも有名な経済学者でノーベル経済学賞の有力候補の一人です。「経済学というとなにやら難しい」という感想が昨今の日本人学生の多数を占めているようですが、この本はとてもくだけた口調で書かれています。訳者の山形さんもその辺を意識してか、普通「逡減」という難しい経済用語ですますのを「だんだん減る」という風に訳しているのはさすがですね。といって内容は日本の書店であふれている「・・・入門書」とか「・・・のよくわかる本」のたぐい本では全然ありません。「生産性」「所得分配」「雇用と失業」「インフレ」「貿易赤字」というキーワードをきちんとわからせてくれる上、これらの用語をうまく使って経済の最先端の動きまでを理論的に説明しています。「くだけた語り口」と「高度な内容」が両立している、そこがクルーグマン教授の素晴らしいところでしょう。



ギリシア神話を知っていますか

阿刀田高 著
新潮文庫

阿刀田先生の人気シリーズ新潮社版古典教養講座も昨年8月に上梓された『コーランを知っていますか』で8冊目。ちなみに7冊目までを刊行順に列挙すれば、『ギリシア神話を知っていますか』『アラビアンナイトを楽しむために』『あなたの知らないガリバー旅行記』『旧約聖書を知っていますか』『新約聖書を知っていますか』『ホメロスを楽しむために』『シェイクスピアを楽しむために』であり、『コーラン』以外はすべて新潮文庫で入手可能。これにくわえて『私のギリシャ神話』(集英社文庫)と『楽しい古事記』(角川文庫)まで揃えれば、コレクションは完璧となる。いずれも楽しく、ためになり、一読に値する。そのなかで一冊選ぶとすれば、やはり1978年刊行のシリーズ第一作『ギリシア神話を知っていますか』であろう。巻頭の「トロイアのカッサンドラ」から終章「古代へのぬくもり」まで、全編阿刀田先生のギリシアへの愛に満ちあふれ、読者はギリシア神話のゆたかな物語性に魅了され、陽光きらめくエーゲ海へと一刻も早く旅立ちたくなるだろう。この本の成功なくしてはシリーズ化もありえなかつたろうことが納得できる。ギリシア神話のヒーロー、ヒロイン総出演の第一級の入門書であり、とにかく面白い。さらにソフォクレスは当たり前として、ラシーヌやジロドゥなんかが引かれているところも、演劇好きで仏文出身の阿刀田先生の趣味がでていて微笑ましい。ハリウッドの超大作『トロイ』の公開も控えているし、『指輪物語』(第3部「王の帰還」は感涙ものだったね)のつぎはギリシア神話がブームになりそうだ。そうすれば、この本なんかまた売れるんだろうなあ。ちなみにホメロスの英語名はホーマー、ホーマーという名の主人公がでてくる映画にジョン・アーヴィング原作・脚本の『サイダーハウス・ルール』がある。全然関係ないけど、これもいい映画だから機会があればぜひどうぞ。監督はラッセ・ハルストロム、今年のアカデミー主演女優賞のシャーリーズ・セロンがとってもチャーミング。

追悼 飯田規和先生

県立新潟女子短期大学前学長で、県短生協の設立に深く寄与された飯田規和先生が、2004年1月12日、逝去されました。

ここに飯田先生への追悼のことばを掲載し、あわせて、飯田先生が「どこでもドアのかぎ」にお寄せくださった原稿と、飯田先生が翻訳された本の紹介を再録します。

『罪と罰』 ドストエフスキー / 岩波文庫

これは刑法の本ではなくて、小説です。先日、この本を読んでロシアの小説が嫌いになったという人に会いましたが、あなたはどうですか？

『検察官』 ゴーゴリ / 岩波文庫

『現代の英雄』 レールモントフ / 岩波文庫

『復活』 トルストイ / 岩波文庫

以上、すべて小説（ロシア文学）。小説のおもしろさを知って欲しいと思います。

----- 「どこでもドアのかぎ」 (1997/3 発行) 収録

『おろしや国酔夢譚』 井上靖 / 徳間文庫・文春文庫

今から 200 年も前にシベリアとヨーロッパ・ロシアを横断し、日本人で初めて当時のヨーロッパ分明に接し、合計 10 年の歳月を費やしてふたたび日本に帰って来た大黒屋光太夫の行状記が面白くないはずはありません。

『シベリア追跡』 椎名誠 / 集英社文庫

200 年前の大黒屋光太夫の足跡を現代という時代にたどった話です。井上靖著「おろしや国酔夢譚」とセットにして読んで下さい。それにできたら、大本の桂川甫周著「北槎聞略」(岩波文庫)もちょっとのぞいてみて下さい。面白いですよ。

----- 「どこでもドアのかぎ 2」 (1998/3 発行) 収録

『ソラリスの陽のもとに』

スタニスワフ・レム著 / 飯田規和訳 / 早川文庫

私がこれまでに読んだSFの中で、文句なしに一番面白かった作品です。「SF」という枠を離れて、小説全体で考えてもベストテンに入りそうです。タルコフスキーの傑作映画「惑星ソラリス」の原作ですが、映画のほうはかなり違った作品になっています。私は小説のほうがより好きです。飯田規和先生の翻訳も味わってください。

『一世紀より長い一日』

チングス・アイトマートフ著 / 飯田規和訳 / 講談社

これも飯田先生の訳された本。原作者のアイトマートフはソビエトを代表する作家の一人です。私がこの本に出会ったのはみなさんと同じくらいの年齢だったときで、寝る前に少しだけ、と読みはじめたのに、そのまま夢中になって、一気に最後まで読んでしまいました。読み終えて我にかえり、外を見たらすっかり朝になっていたの、あわてて大学へ出かけたのを覚えています。

-----推薦者：水上則子 「どこでもドアのかぎ」 (1997/3 発行)収録

弔辞

前の^{さき}県立新潟女子短期大学長飯田規和先生の御^{みたま}霊の御^{みまえ}前に申し上げます。

先生は、1991年5月、本学国際教養学科増設に当たり、その中核となる教授として前任校東京外国語大学から招聘され、当時の島津学長を支えてカリキュラムの編成、新規教員の採用などに奔走、国際教養学科開設に力を尽くされました。

1993年4月、同学科発足と同時に初代学科長に就任、新設学科の教育研究環境の整備に務められました。その後、学生部長に就任されるや、大学生生活協同組合を設立するなど、学生及び教職員の福利厚生環境の改善にも大いに力を尽くされました。

1997年4月、学長に就任され、二期6年にわたり多くの課題に取り組まれました。中でも大きなことは、本学初の「自己点検評価白書」の作成を指導し、また将来計画策定委員会を立ち上げて、本学のこれまでの教育と研究の実績に基づく新しい四年制大学構想をまとめ上げられました。このことにより、学内外から長年待望され続けてきた四年制大学の設立を、実現の方向へ大きく近づけられたのであります。

先生は、生涯かけてたずさわられたロシア文学研究の過程で蒐集された多数の蔵書を本学の図書館に寄贈されました。この「飯田文庫」は、文学にとどまらず歴史や政治をも含めたロシア研究の広範な資料として、教職員学生に活用されております。

先生はまた付属幼稚園長を兼務され、幼児たちはもとより、教職員からも保護者からも、頼りになる優しい園長先生として慕われ続けてこられました。

このように、^{こんにち}今日わが県立新潟女子短期大学が、全国屈指のすぐれた存在としての評価を受けるに至っておりますのは、ひとえに先生のお働きを頂いてのことです。任期を終えられて未だ一年に満たない今日、先生をお送りするに至ったことは、先生が^{いま}本学のためにすべてをお尽くしくくださったことの故であることを思い、言葉を失います。

先生、飯田規和先生。先生の愛された、新潟と、本学を、永遠にお守りください。私も一同、先生の歩まれたあとに続くことをお誓い

して弔辞といたします。

2004年1月15日

県立新潟女子短期大学長
岸井勇雄

上は告別式の弔辞です。一般に前任校、教え子、出版社、友人の代表等の弔辞が予想されたので、なるべく大切な要素だけをと考えて短縮をはかったのですが、式は無宗教で、弔辞は私一人でした。思い余って言葉足らずですが、書き加える訳にもいかず、述べた通りを再録しました。



飯田先生のこと

年をとると、年齢の近い人が亡くなると寂しくなります。飯田先生は治療のいかなく旅たれました。先生とおつきあいたいいろいろのことが思い出されます。

1)私と先生の初めての出会いは13年前で、東京外国語大学ででした。国際教養学科をつくることになり、ロシア語専攻の中心になってくれる先生を探すことになりましたが、専門の違う私には見当がつかず途方にくれていました。そんなあるとき、前からおつきあっているロシアの自然科学書を翻訳している金光不二夫さんを思い出しました。早速金光さんに連絡をとりましたら、私の同級生に外語大の原卓也さんがいるから連絡をとってみなさいとのことでした。原先生にお会いしたら、この春停年になる飯田先生がいるので話してみることでした。話は順調に進み、引き受けてもらうことになりました。

原先生は外語大の学長をしておられたので、ロシア語、中国語、韓国語の先生をつぎつぎと紹介して下さいました。原先生のお父さんは水原町出身の原久一郎さんで、トルストイの全作品をはじめて日本に紹介したロシア文学の大先輩です。新潟にゆかりのある先生なので短大のためにいろいろお世話して下さいましたのだと思います。

2)私が学長になってから不便に感じていたことの一つは学内に売店がないことでした。海老ヶ瀬では学生さんも不便だろうと思って、会議などでほかの短大の学長さんにお会いしたり、ほかの短大を訪問したりするたびに、どうしているのかと訊ねたりしていました。全然関心のない学長もいましたが、同窓会の人たちが交代で小さな売店を運営していると話してくれる学長もいました。しかし、生協のある短大はほとんどありませんでした。私はこの短大の規模では生協をつくるのは無理かとあきらめていました。

ところが、飯田先生が学生部長になられてから、何度も会合を開いて生協のことを議論していたようです。私はうまくいくのかとなかば傍観的にみていました。それが新潟大学生協にわたりをつけ、ついに実現したのです。先生の獐猛さにシャッポをぬいだわけです。その後、外部委託だった食堂も生協が運営するようになり、学生に喜ばれているようです。

飯田先生はロシア語専攻の基礎をつくれ、学長を二期も続けられ

苦労されましたが、生協をつくり、学生の福利厚生に尽力されたことも大きな短大への貢献であったと感謝しています。学長を終えられて一年もたたずになくなられたことは本当に残念でなりません。



飯田規和先生追悼

飯田規和先生に初めてお会いしたのは、1991年5月のことです。東京外国語大学を退職されて、国際教養学科創設のために県短に赴任されたのです。当時の教養科に所属されることになって、私ども数人の教養科メンバーは、早速、歓迎の夕食会をしました。飯田先生は1928年山梨県のお生まれとお聞きして、私は、新潟育ちですが生まれたのは山梨県甲府市なので、何か急に親近感を覚えました。先生は遠慮がちに自己紹介をなさったように思います。先生の年代は、旧制中学校時代が戦争末期であり、終戦後は学制改革、東京外国語大学でロシア語を学ぶことになるまでには、少し年代の若い私には想像しがたい葛藤の時期があったのではないかと、お聞きしながら思ったのでした。この頃のことをいつか聞かせていただきたいと思い続けていながら果たせませんでした。

国際教養学科誕生までの二年間、ちょうど図書館に関わっていた私は、新設学科の図書準備のことなどで、度々飯田先生の研究室にお邪魔しました。研究室といっても空き室利用の臨時の部屋でしたが、ロシア語の文学書が並んでいる光景を見ると、私もこんな本を読むことができるようになりたい、学生のように先生に教えていただきたい、と勝手な思いがつのりました。91年の秋、お忙しいのを承知で、学生のためにと10回のロシア語講座を開いていただきました。その時、教えていただいた「鐘」の歌が今も忘れられません。音楽がお好きだった先生、そう言えば、研究室に時々、かすかな音でクラシック音楽が流れていました。ロシア語を少しばかりかじらせてもらった私は、92年6月に上梓された「岩波ロシア語辞典」を手に入れるとすぐに、編者のお一人である飯田先生のロシア文字のサインをいただきました。

同時代のロシア文学に興味をお持ちの飯田先生は、スタニスワフ・レムやチンギス・アイトマトフなどの小説を何冊も翻訳されています。先生のサイン入り（今度は日本語）のご本を頂いて、私はこれまでの愛読書とは違った文学に目を向けさせていただくことができました。1996年出版のアイトマトフ「カッサンドラの烙印」は、国際教養学科長時代のお仕事のようなのです。

新学科設置準備、学科長、学生部長に続いて学長に就任、難航する

四大化、と一時も休む閑のない県短生活だったことを、今あらためてお気の毒でなりません。一足早く退職した私への時折のお便りの中に「自由にあこがれているのですが、なかなか解放されません」という言葉がありました。自由の暮らしになって、お若い頃の話、ロシア文学、お好きな音楽のことなど、お聞きする日を待っていたのですが。ご病気だったことをお聞きして、ご退職後の6月、松浜のお宅を訪ねました。痛みとの戦いとおっしゃっていましたが、研究室をお訪ねした頃と少しも変わらないおだやかな様子でお話なさっていました。ご冥福をお祈りいたします。



故飯田規和先生を思う

飯田先生、早すぎます。これから先生と奥様との自由時間を悠々と過ごされる時に本当に残念です。私が学生部長、図書館長兼務時、機会ある度に学長室にお邪魔しました。「やあー、良く来てくれた」と何時もニコニコ顔で迎えていただきました。いろんな話を親身になって聞いていただき、その中で「戸張さん、思うようにやれよ、あとはまかせろ、、、」と言われ、先生の人的魅力を大いに感じ感動したものです。笑顔あり、真顔あり印象に強く残る飯田先生でした。先生のご冥福をお祈り致します。 合掌



リベラルで誠実だった飯田先生

飯田先生に初めてお会いしたのは、平成3年の7月か、翌年10月のことであったと思う。

この時期、わたしは新聞社に勤めるかたわら、県短非常勤講師として金子知事の辞令を受け、講義のため新潟の地を訪れていた。一夕、当時の島津学長のお誘いを受け、古町界隈で会食をした。その折、飯田先生に紹介され、柔和で優しく、いかにも学級肌のご風貌に接した。

先生は平成3年5月に新潟の地に赴任され、国際教養学科の設立準備をされた。その年の3月まで東京外国語大学ロシア語課程主任教授のポストにおられた。島津学長が新しい学科設立に関して新潟県水原出身の原卓也先生（当時、東京外大学長）に相談され、退官間際の飯田先生を紹介され、直接本人に打診したところ、先生は即座に「新潟行き」を快諾されたという。

後で存じ上げたことであるが、飯田先生はロシア語のほかに文学者として「シベリアの少数民族文学」に強い関心を持たれていた。そのことが極東ロシアに近い新潟の地に来られたもう一つの理由ではなからうか。もっともこれは私の勝手な想像である。

国際教養学科という全国でもユニークな勉学の場所をデザインされたのは、飯田先生である。短大という枠をはめられながらも、この学科に入学してきた学生は露、中、韓の三コースに分かれ、専攻言語について週6コマの授業をとることを義務付けられた。この外大並ともいべき濃密な語学カリキュラムに、飯田先生の熱い思いを感じざるを得ない。当時新潟県は環日本海ブームに沸いており、県もこの方向を目指して新学科設立に踏み切ったのであった。

飯田先生はリベラリストであった。新しい学科には一部の先生方を除き全国からさまざまなタイプの人たちが集まった。私も含めマスコミ出身者も3人いた。島津学長によると「わかりやすい授業をするには、ジャーナリスト出身者を教員として数人含めた方がいい」との原卓也先生のアドバイスを受けたものだった。ともかく飯田先生は初代学科長としてこうした多様性に富んだ老若男女の人材を「自由」な雰囲気の中でうまくまとめていかれた。

97年4月から飯田先生は島津学長の後を受け、学長ポストに就かれた。就任第一声として「県短の4年制化実現を私の第一の仕事にし

たい」と述べられた。

この問題については私自身も少し関わっていたので、手前ミソにはなるが、簡単に説明させていただく。私は島津学長の要請で県が前年スタートさせた「高等教育機関の整備に関する懇談会」のメンバーになっていた。第一回の会合で平山知事が出席「新潟県にとって将来役立つ人材を県内の大学で出来るだけ自賄いしたい。その方向で提言を出して欲しい」と述べられた。私は持論でもある県立4大の必要性を終始一貫強調した。12人のメンバーからはさまざまな意見が出され、いろいろなことがあったが、結局この年の3月に出了された提言には「経済的負担の軽減に対する県民ニーズや地域に密着した研究推進等の観点から、県立大学の設置が望ましいとの意見が多数あった。県立大学の設置の検討は、県立新潟女子短期大学および新潟県立看護短期大学の4年制化等の検討を含めて行われることが望まれる」との文言が盛り込まれた。故人となった飯田先生のお許しを得たつもりで少し長く引用させていただいたが、就任第一声の背景にはこういうことがあった。

飯田学長は県短の4年制化に向け、学内に「将来計画策定特別委員会」を設置した。この委員会は2年がかりで将来の県立4大の青写真を検討、その結果、現在の4学科から人間生活学部、国際交流学部、総合政策学部の3学部に変更する案をまとめた。99年の夏頃であり、あとはこの提言を知事に持っていくだけの段階になっていた。

その時、思いがけないハプニングが発生した。ある朝、新潟日報を開いてみると、大きな特集記事で「県立女子短大は学内で四年制化を検討したものの、現段階では時期尚早と判断」と報じていた。県短の関係者はいずれも自分の目を疑っただろう。学長はロシアに出張中であつたため、私はすぐさま新潟日報に電話を入れた。電話の向こうに知遇を得ていた篠田昭学芸部長が出た。次のような会話が交わされた。

「日報の3面の記事を読みましたが、どう思いますか」「変ですね。私の知っている県短の動きとは違います」「では申し訳ありませんが、この記事を書いた記者が当事者である県短を取材したか調べていただけますか」「わかりました」。

夕方、記事を書いた記者本人から電話がかかってきた。「県庁にある県短の担当課から話を聞き記事にしました。県短自体は取材していません」と悪びれずに言う記者に対し、私は少なからず当惑した。私自身は古い記者のタイプかも知れないが、役所からリークされた情報については必ず当事者に打ち返し、裏をとっていた。それがジャーナリストとしての基本作業であると思っていた。

この後、私は3回ほど黒崎に本社のある新潟日報本社を訪ね、篠田昭氏にお会いした。篠田氏はその後新潟市長になられたことからわかるように、ジャーナリストとしても見識を持ち、終始誠実に対応された。その結果、飯田学長が日報の学芸面に大きなスペースをいただき「岐路に立つ女子短期大学」という文章を寄稿した。この原稿は今読んでも飯田学長の誠実さがにじみ出たものとなっている。

県短は極めて地味な大学である。8000人へのぼる卒業生たちは県内や全国各地で堅実に活躍しているのに「顔の見えない県短」といわれる。これには飯田学長も苦慮されていた。

この時期、県短の窮状を見かねて強力な応援団が現れた。一人は新潟市にリュートピアを立ち上げ企画力に定評のある大河内芳子さんであり、もう一人は抜群の行動力を持つ「かざし会」会長の神田節子さんだ。この二人を協力者として得たことは県短として幸運であったし、大きな力となった。二人はまたたく間に同窓会や県下の女性団体に呼びかけ「県短の共学四年制化を進める会」を設立、2000年春にはまったくボランティアの形で知事や県議会の主要メンバーに4大化へ向けての要望書を提出した。また夏には万代市民会館で「進める会」主催によるシンポジウムを開き、県短の4年制化の必要性を県民に訴えた。この流れの中で選挙を目前に控えた平山知事は県短の4年制化を公約した。飯田学長も内心ホッとされたに違いない。

飯田学長は地味な方であり、少しシャイなところもあった。応援団の人たちはこうした飯田学長の控えめで誠実な人柄を知るにつれ、応援したくなった面もあったように思う。私自身は神田さんから「応援団と県短の窓口を引き受けて欲しい」との要請を受け、学長の了解をとりこれを引き受けていた。また飯田学長に対しては努めて自分の意見を率直に申し上げていた。学長は終始誠実に耳を傾けて下さった。

さて、2001年から飯田先生は学長として2期目に入ったが、問題は山積していた。県短の4年制化については、トンネルの向こうに明かりがほのかに見えてきたが、出口にいつ到達できるかは皆目わからなかった。

学内行政も思うようにいかずお悩みになっていたと思う。役所風にいえば県短には6つの学科・専攻が並存しており「学科・専攻あって大学なし」の観を長い間呈していた。国立大学のほうは一足先に独立大学法人の道を歩み始めていたが、県短の場合には学長はリーダーシップを発揮できる余地はほとんどなく、裁量権も皆無といってよい。

県から事務局に出向してきた人たちは個人的にはいい人たちばかりだったが、短期間に「大学の本来のあり方」を理解することは難し

い。

どんな組織であれ、トップに座った人間は孤独を免れない。国立大学以上に矛盾を抱えるに至った県立大学の現状を考えて、飯田先生は広い学長室でひとり沈思黙考されたこともあったであろう。

そしてこの時期、飯田学長の肉体にはいつの間にか病魔が住み着くようになり、膨張していった。退官を目前に退院して来られた飯田学長が教授会の議長を努められる姿は痛々しかった。3月に予定されていた“飯田学長送別パーティー”も見送りとなった。

平成16年の新年を迎えてまもなく飯田先生の訃報が我々のもとを襲った。東京・清瀬の全龍寺で行われた告別式は宗教色もなく極めて簡素に行われた。生前、リベラルであり、誠実で芯の強かった飯田先生らしい、と私は思った。

お棺におさまった飯田先生のお姿は一段と小さくなっておられた。出棺に際して幸子夫人が次のような趣旨のご挨拶を述べられた。「飯田は病気に苦しみました。モルヒネも使いました。最後の方では足腰が立たなくなり、立って歩けるころの自分を懐かしんでいました。でもいつも気持ちは平静でした。」
合掌。

飯田先生 安らかにお眠りください

飯田先生が県立新潟女子短期大学生活協同組合の生みの親であったということにどなたも反対なさらないだろうと思います。先生が学生部長のとき、短大に生協を作ろうと、当時の学生部委員の教職員を中心に勉強会が始まりました。次の年には発起人会ができ、学生たちも巻き込んで設立運動が展開され、生協が創立されたのです。飯田先生が学長になられてからは、生協の総会に欠かさず出席されて、生協設立時の学生教職員の思いを時々学生たちに伝えてくださったことが懐かしく思い出されます。

飯田先生が学長時代になされた最大のことは、短大の四大化への道筋をつけられたということです。学内では、将来構想委員会を叱咤激励して新大学の構想づくりを推進し、一方、自己評価自己点検委員会を率いて「短大の現状と課題」をまとめ、それをもって熱心に県に働きかけられました。学外では、同窓会や県内の女性団体の支援を得て、四大設立への応援団を組織されました。おかげで、県短の長年の悲願だった四大化が知事の公約の一つとなり、新大学の学部・学科構想づくりが始まりました。けれども、県の学部学科案が短大案から離れたものになっていったことについては随分歯がゆい思いをされていたに違いありません。折しも先生のお身体を病魔が蝕みはじめていたのです。

私たち語学教員が語学教育協議会を組織して短大の語学教育の見直しをしようとしたころ、学長であった飯田先生から宿題を出されました。それは、どこにもないような語学教育を考えてくださいというものでした。短大ではもちろん新しい四年制大学の目玉になるような斬新なアイデアはありませんかと何度も鼓舞されました。先生が短大を去られる日までに一つの形にまとめることができず、それが心残りになっていました。昨年英文学科で、この10年の英語教育をまとめ、「特色ある大学教育支援プログラム」に応募したところ、ヒヤリングまでいくことができました。残念ながら最終選考にはもれましたが、これは先生への一つのお答えになると思い、昨年10月に申請書類とヒヤリングのプレゼンテーション資料をお送りしました。先生の生のお声を聞けなかったのは残念ですが、読んでくださったようだということを奥様からの手紙で知りました。これからは、飯田先

生が設立された国際教養学科の語学教員と力をあわせて、短大の語学教育をさらに推進し、新しい大学の設立につなげることが、先生の御恩に報いることではないかと考えております



飯田園長先生

「身近に小さい子がいないから、子どものことは分からないんだ」と困ったようにおっしゃりながらも、いつしか幼稚園の子どもたちに「園長ちゃん」と最大級の親しみをこめて呼ばれ、ぐるりと周りを取り囲まれるほどの存在になってくださった飯田先生。先生は子どもたちにも、おとなに対するのと全く同じように、話にじっと耳を傾け、誠実に対応していただきました。時には子どもと一緒に「どうしよう」と困った表情をされたり、大声で笑ったりされながら。そうしたお姿に子どもも保護者も「私たちの園長先生」という思いを深くしていったように思います。園長先生としての飯田先生をいくつかご紹介します。

ひとつは折りにふれて「幼稚園だより」に思いのこもった文を寄せてくださったことです。子どもを取り巻く社会のありかたについてであったり、季節や自然についてであったりとさまざまでしたが、特に春を待つ楽しさを語られたそれは忘れることができません。

もうひとつは、子どもたちにたくさんの印象深いお話をしてくださったことです。二年前の修了式のときは、「みんなは幼稚園のどこに行けばどんな虫がいて、どんな花が咲いていて、どんな遊びができるか、もう全部知っているよね。どの遊びをするにはどこですれば一番楽しいかも知っているね。幼稚園のことも友だちと遊ぶと楽しいこともみんな分かったから、もう幼稚園を修了して今度は小学校で同じようにいろんなことを見つけましょう。きっとわくわくするようなことが待っていますよ。」と語りかけてくださいました。これは幼稚園の教育を象徴するようで、会場の皆が温かな気持ちに包まれたことでした。

ご専門外だとはおっしゃりながらも、子どもにそそぐ眼差しや私たち教職員に接してくださるお姿で、教育にとって何が大切かをしっかりと示してくださいました。

この度飯田先生の計報に接し、多くの保護者から幼稚園にお悔やみが寄せられました。先生をお慕いする人がいかに多いかを改めて知らされました。子ども、保護者、教職員、皆がかわいがっていただきました。飯田先生のお言葉をそれぞれ大切にしていきたいと思えます。

娘ともども……

初めての専任教員として県短に来て以来、ずっと飯田先生には近くで見守っていただいていたような気がしており、それがまだまだ続くと勝手に思い込んでおりました。新潟は初めてであり、教員としても多くの不安がありましたが、同僚の先生方にも恵まれながら、飯田先生に導かれ無事に続けて来られたのだと思います。最初の頃は、会議の後など度々先生方ともども飲食をご一緒したりしましたが、その折にもこちらの話をよく聴いていただき、やさしく安心を与えていただきました。またお宅に伺ったことや、松浜の花火を阿賀野川縁で一緒に楽しんだことなど、いろいろ思い出されます。学長になられてからは、ますますお忙しくなりご心労も絶えなかったことと存じながら、何らお役に立つこともできず情けない限りです。学長室に伺ったりすると、いつも以前と変わらず気さくにお話してくださったのに、勝手に敷居を高く感じてしまって残念でなりません。

結婚して娘が生まれ、その娘が3年間付属幼稚園でお世話になりました。入園前から機会があれば娘を幼稚園に連れて行っていただけるとあり、娘にとって、飯田先生はずっとやさしい園長先生であるようです。昨年3月の卒園式の時には、娘なりに心配していたようで、何度も私に園長先生のことを尋ねてきました。小学校に上がってからも、時に思い出していたようです。そして娘もお見舞いに伺いたいと申ししておりましたが、それもかなわずじまいでした。そんな昨年7月松浜のご自宅に伺った折に、とても素敵なロシア人形をいただきました。娘にということとその人形を渡したのですが、遊びの相手ではなく部屋に飾ってあります。最後の悲しいお知らせを伝えた時には、私同様言葉を失っていました。今でも、幼稚園で園長先生からいただいた金メダルとともにそのお人形は娘にとって宝物のようです。

家族ともども、感謝の誠をささげ、心からご冥福をお祈り致します。

県立新潟女子短大に赴任して初めて携わった仕事が、生協の設立でした。長い学生・院生生活の間も、非常勤講師となってからも、大学には大学生協があって当然と思っていましたが、新たに生協を作るといのは未体験の冒険でした。それが、どれほど大変で難儀な仕事だったことか！ けれども、どれほど楽しいわくわくするような体験だったことか！ そして、そういう大きなうねりの中心にいらしたのが飯田先生でした。

生協のような組織は、多くの人の熱意と協力がなくてはとても運営できませんし、まして新たに作り出すというのは大変な力技です。もちろん、学生の力はとても大きなもので、これなしにはなにも始まらなかったでしょう。特に短大の場合は、学生と一緒に教員が頑張らなくてはならない場面も多くあります。水上先生、姉齒先生、原野先生、森川先生といった、若い先生がたが学生の指導に奔走されていました。もちろん、こうした学生や若い教員の活躍は、これまでも何度もありました。生協設立の動きは、今度が最初ではなかったのです。けれども、そのたびに、大きな壁にぶつかって頓挫しました。

元気な学生や教員の力がどれほど大きくても、事務局も教授会も一致して生協設立の意志を作り上げることができなければ、生協は実現しません。これまでは、どんなに切実であっても、生協実現は一部の声にしかならなかったのでしょう。これを全学の意志にしなくてはなりません。当時学生部長でいらした飯田先生は、率先して全学の意志をまとめるために尽力されたのでした。実際、学生部として生協の必要性を主張して、事務局や県と折衝するという一番困難な仕事にまず着手され、これを強力に推し進められたのが、飯田先生でした。その一方で、実現の可能性をさぐるために新潟大学生協と交渉を始め、実際に協力を取り付けることに成功したのも、飯田先生のご尽力でした。

思えば飯田先生の後押しで私は今日まで生協とかかわってきたように思います。飯田先生のお力がなかったら、そのころはまだ若かった私たち教員だけでここまでこれたとはとても思えないのです。状況を変えていくための具体的な努力、人と人をつないで個人の持っているさまざまな能力を大きな力に変えること、こうしたことを、改めて飯田先生から教えていただいたように思います。先生の教えは、生協の活動のみならず、その後の私のよりどころとなったのでした。

1997年5月の創立総会の熱気の中で挨拶に立たれた飯田先生のう

れしそうな顔を、忘れることができません。そして、その冬初めての大雪に見舞われた店舗開店の日のよろこびも。

ご病気のお具合もかなりよしいようだと昨年末にうかがって、暖かくなったら所沢のご自宅をお訪ねさせていただけるだろうかと思っておりました矢先の訃報でした。こんなことなら、もっとたくさんのお話をうかがっておきたかったと、いまさらながら残念でなりません。長い間のご教示・ご尽力、ありがとうございました。先生の御遺志を受け継いで、県短生協を発展させたいと思います。いまはやすらかに休みください。

飯田先生が学長に推される前は

飯田先生が学長に推される前は、委員会で一緒に仕事をさせていた。飯田先生が委員長だった、その学生委員会で、「学生生活のサポート体制を考えると、学生や教員から出されている生協設立が可能か否かを検討すべきではないか。」と委員の背中を押したのが、他ならぬ飯田先生であった。長年生協設立の声は細々と聞こえてはいたものの、「小規模校では無理」「どうせ学生はやる気を出さないのでは。」との思いもあり、なかなか足を踏み出せずにはいた私たちに、飯田先生は「良いと思うことは何でもやってみましょうよ。」とにこっと微笑む。学長になってからも責任あるものの立場としてさまざまな重圧を感じることがあったはずなのに、飯田先生は、「何かあれば私が責任を取るから」とまで言っただけの強さをもって、私たち若手教員の積極性を引き出してくれた。学生教職員の9割以上の署名を集め、短期間で県短に生協が設立できたのは、私たちの力を信じ、要所要所でサポートをし続けて下さった飯田先生の力に因るところが大きい。

学長になってからも、学長室に独りでのんびりするのは好まないと言い、自主設立の広報委員会（教員がボランティアに県民・学生・教職員向けに広報誌を作成する委員会）の活動に学長室を開放して頂いた。私たちはサンドイッチやお菓子、紅茶を持ち寄り、学長室で会議とも雑談ともとれる寄り合いを持った。すべて持ち寄りで資金のない私たちにカンパをそっと渡してくれる、そんな学長だった。私が在外研究中に慣れない食べ物で食欲をなくした上に乾燥で悩んだことを連載中のエッセイで書くやいなや、学長からお手紙を頂戴した。

学長からは胃だけではなく、肌荒れまで心配していただいて、恥ずかしいやら感激するやらで、その手紙を毎日のように読み返していた。

「大学は研究の場でもあり教育の場でもある。常に人格者であれ。」これが私の大学院での指導教授から学んだ大切なことであった。自分自身はまだ到底その言を実行しているとは言いがたいが、もう経験はかなり積んだであろう年配の研究者にはじめて会うとき、やはり「人格者」が「値踏み」の基準となっていることに気がつくことがある。

最初から自分の経歴をとうとうと並べたてるような年配者は信用ならない。「僕は若いうちに認められていたからねえ。」なんて聞きもしないのに言う人とは以後一切お付き合いしたくないと思ってしま

うし、たぶん顔に出してしまっている。

飯田先生は、あんなにもロシア語教育や文学者として高名であったにもかかわらず、常に控えめであった。ひたすら真摯に研究・教育のために力を尽くされてきただけではない、自分の人生に妥協を許さない、困難な時代を信念を曲げずに生きてこられた強さに裏づけされた高潔な人格に、私が尊敬してやまない大学院の指導教授や自分の父親と同じ人間性を、私は常に感じていた。もっとも、今、こんなことを面と向かっていったら、飯田先生はかなり困った顔をされるに違いない。

大学が今後 10 年以上存続できるか否か、それは F D (Faculty Development = 教員による授業内容の改善などを組織的に行う活動) の成否如何である・・・と、近年どこの大学でもよく聞かれる。本当の意味での F D とは、大学で学ぶ学生たちと一緒にそこで学ぶ意義を感じられるような大学を作っていくための自主的な取り組みであるべきである。しかし、その本来の意味がいつの間にか「外部からの評価」や「まず減量経営ありき」ひいては「相互監視体制」などということにすりかえられてしまえば、飯田先生のもとで私たちが経験してきた、学生たちと、そして教職員と一緒に考え行動していく中で得られた人間的な成長や、そうした人間性を土台とした大学人としての職業上の成長も不可能であると断言できる。今、大学を移り、学生や教員同士で何かに取り組むとき、個々の事象に「失望」することはあっても「絶望」しないでいられるのは、飯田先生が体現される当時の県短で過ごした 8 年間のおかげである。学長に「大学を移る」ことを話した際の「姉齒さんもいっちゃうのか・・・」という言葉が忘れられない。自分の身勝手に、みんなで造りかけているものを学長や他の同僚たちに押し付けて出て行ってしまうことに対する、いまだになんとも表現できない気持ちに打ちのめされる私に「移る前に最後の仕事して行ってよ。」と言って、「昇進昇格基準策定」という大切な仕事的一端を任せてくれた飯田先生。まだ、どんなに言葉を尽くしても、飯田先生の思い出を語りつくすことはできないし、その喪失感をどう扱えばよいのかわからない。

少し年上の友人

飯田先生は握手が好きだった。少なくとも私との関係ではそうだった。この10年、何度握手したかわからない。県短への赴任が決まり、初めて新潟の地を訪れ、ご挨拶したときも、「ようこそ！」の一言とともにまずは握手だった。お宅に遊びに行っても握手、病室にお見舞いに行っても握手だった。94年夏、国際教養学科初の海外実地研修でロシアに行ったときのことも忘れられない。新潟空港に無事降り着いたとき、飯田先生は学生の一人一人と握手をし、最後に水上先生と私の手を握った。旅の終わりの心暖まる握手に言葉もなかった。この年のロシアはまだソ連崩壊後の混乱のなかにあり、街はちょっと危なそうだった。飯田先生と水上先生、ロシア語堪能なお二人が同行していたから問題はないはずだったが、ロシア語ができない私が一緒に行ったものだから、ハバロフスク教育大学のお別れパーティでウォッカを飲み過ぎて酔いつぶれてしまったり、あるいは学科備品の8ミリビデオを泊まっていた教育大の学生寮で盗まれてしまい、飯田先生の通訳で警察の事情聴取をうけたりなど、ずいぶんとお二人にはご迷惑をおかけした（いずれも語学力とは関係ない?）でも私にとっては楽しく印象深い旅だった。シベリアの森の街を散策し、バイカル湖畔では降るような星空を眺めることができた。そしてなによりもロシア通でガイドの経験もある飯田先生とともに極東ロシアを旅する機会に恵まれたのだから。

飯田先生と最後にお会いしたのは、昨年の12月だった。所沢のご自宅へお見舞いに伺ったのだが、先生は顔色も良くとてもお元気だった。奥様に朗読してもらっている漱石のことや当時NHKのBSで放映されていた小津映画についてなど、一時間あまり歓談した。別れ際、「小津は年明けにやる『麦秋』がベストだから、ぜひ観るように」と軽口をたたくと、先生は苦笑され、「また遊びに来てよ。短大のみんなによるしくね」と仰って、手を差しだされた。お痩せになっていたとはいえ、まったくいつもと変わぬ笑顔だったので、これが最後になるなんて夢にも思わなかった。「また近いうちにお会いしましょう」と言って握った先生の手は少し汗ばんでひんやりとしていた。

飯田先生にとって握手とは、親愛と友情のしるしであると同時に、自由で対等な人間関係を証すものではなかったろうか。いつだったか

忘れてしまったが、先生は、終戦直後のたしか名古屋での最後の旧制高校時代のことを振り返って、「当時はなにもなかったけれど、すべてを自分たちの手で新しく始めることができる喜びがあった」と話してくれたことがある。先生もまた、昭和20年8月15日の抜けるような青空を「自由への解放」と受けとめた若者のひとりだったのだ。学長の椅子は、授業と学生たちを愛された先生にはけっして座り心地の良いものではなかったと思うが、四大化構想策定を初めとして、人間の善意と自発性を信じる先生のリーダーシップのありようは、本当にかげがえのないものだった。国際教養学科の自由な雰囲気も、県短生協の設立も飯田先生抜きにはありえなかつたらう。

飯田先生は、私にとって、恩師でも、上司でも、同僚でもなかつた。こんないいかたが不遜なことは十分にわきまえているのだが、でもあえていわせていただきたい。私にとって、飯田先生は、少し年上の友人だったのだ。この友人は、人柄そのままの自由闊達で凜とした明晰で典雅な文章の書き手でもあつた。そして人生でもっとも悲しい出来事は、心から尊敬し信頼する友人とこの世界で親しく語りあうことが二度とできないことなのである。そのことの意味を今あらためてかみしめている。

お約束すること

私が飯田先生にはじめてお目にかかったのは、1981年、東京外国語大学に入学したときです。個性の強い教授陣の中で、飯田先生は、落ち着いて、控えめでいらっしゃるので、どちらかというが目立たない先生でした。しかし、新入生歓迎会で、他の先生が一曲歌われたあとで、「今のああいうのは、歌とはいえませんね。歌とはこういうものです」とおっしゃって、美声を響かせてロシア民謡を歌い、喝采を浴びる、という一幕もありました。

私は、飯田先生のご専門だった「ロシア現代文学」と「フォークロア」の両方にとっても興味があったため、研究室に伺ったりしてご指導を受け、4年次の卒業論文ゼミも、飯田先生にお世話になることになりました。ゼミの後は、先生もお帰りになることが多かったので、西ヶ原のキャンパスから染井霊園を抜けて巣鴨駅に至る15分ほどの道をご一緒させていただく、という機会にしばしば恵まれました。今にして思えば、それはとても贅沢な時間でした。

道々どんなことをお話ししていたのか、あまりよく記憶していませんが、論文に取り上げようとしていた作家のことや、先生が訳された御本について、つたない感想を申し上げたりしていたはずです。イトマトフの「一世紀より長い一日」について、とてもおもしろくて途中で止められず、一晩で読んでしまいました、と申し上げたときには、とても喜んでくださったことを覚えています。また、あるとき、同道していた学生の一人に、どうして(都電に乗らずに)駅まで歩くのですか、と尋ねられて、「だってね、春には桜がきれいでしょう。秋にはイチョウがまっ黄色になってね、見事なんだよ」とお答えになったのも、なぜか鮮明に覚えています。その口調が、教室でお聞きするのはまったく違って、まるで少年のようだったから、かもしれません。

外大を卒業したあとは、お目にかかる機会は少なくなっていました。大学院を終えてまもなく、県立新潟女子短大の教員として迎え入れていただくことになりました。教えるという経験をほとんど持っていないので、一から十まで指導していただく毎日でした。国際教養学科の野心的なカリキュラムは、未熟な私には荷が重く、厳しいお叱りをいただいたこともありますが、今振り返ってみると、もっ

ともっと叱っていただいていたのだった、と思います。

学科開設の翌年には「地域実地研修」が始まり、学生と共に2週間ほどのロシア旅行に出かけることになりましたが、先生から「ロシアへ行く学生がいる限り、ずっと一緒に行ってやってほしい」と言われて、困惑したことも思い出されます。研修旅行のはじめの数回は、行くのがとても辛く、このような科目があることが恨めしく、学生は参加するかどうかを選ぶことができるのに、私にはなぜ選ぶ自由がないのだろう、などと思ったこともありました。しかし、研修旅行の教育効果の大きさを認識するにつれて、前向きに取り組むようになり、結果として先生のお言葉の通りに、学生と一緒に毎年ロシアへ行き続けてこられたこと、そしてたぶんこの先もそれが続くであろうことは、先生からいただいた大きな教育でした。

飯田先生がこの大学で築かれた「ロシア語教育」と「生協」は、私にとって、とても大切な柱です。今は、失ったものの大きさに茫然とするばかりなのですが、これからもロシア語教育のために力を尽くすこと、そしてみんなで生協を守っていけるように頑張ること、を先生にお約束したいと思います。どうか見守ってくださいますように。

飯田 規和 先生へ

飯田規和先生には、さりげなく多くのことを学ばせて頂きました。私より30歳以上、年が離れているにも関わらず、いつも、とてもフランクに時間を取っていただきました。

先生の気さくなお人柄に垣間みえる自分の世代とは異なる時代背景の中で培われ裏付けられたであろう言動は、とても興味深く、楽しく、有意義なものでありました。

飯田先生、本当にありがとうございました。重ね重ね感謝申し上げますとともに、ご冥福をお祈りいたします。



会者定離

飯田先生とはじめてお話ししたのは、1997年4月の教職員の歓送迎会の時だったと思う。飯田先生がちょうど学長に就任され年に、私は県立新潟女子短期大学に赴任した。どんなお話しをさせて頂いたかは詳しく憶えていないが、学長としての責務の重さと本学のより一層の発展を願っておられた印象があり、新任の私にも新しい発想で積極的に教育・研究、学務に活躍して欲しいと暖かい笑顔でお話しして下さいました。そして、お忙しい日々を過ごしていらっしゃるにもかかわらず「私は暇だから、用件がなくてもいつでも部屋に遊びに来て下さい。」と、新しい環境に戸惑っている私にエールを送って頂いた。

その後、飯田先生のご助言を真に受けた私は、失礼も省みず実にいろいろなお話しをさせて頂いた。その中で、最も記憶に残っている先生のお言葉は「君、世の中はおかしなことばかりだよ」とおっしゃったことである。自分自身でどう考えても納得いかないことを放っておけない性格の私が、ある件について飯田先生にご相談させて頂いた時のことだった。先生のお言葉を聞いた私は、正直なところ呆気にとられた。その様なことをおっしゃるならば、なにもより良くなるのではないと思った。

今にして思えば、飯田先生は誰よりも志が高く、いろいろと熟慮されていたのだと思う。だからこそ「世の中のおかしさ」をご指摘なされたのだろう。そして、私の逸る気持ちを諫め、時間の流れの中で機が熟すのを待つように諭して下さいましたと思う。事実、飯田先生にご相談した件は、その後よい方向に動き始めたと思う。

飯田先生は2003年3月に本学を静かに去られが、私にはいままなお身近に感じられる恩師である。先生が黄泉の国へ旅立たれた同じ年に私も新潟を離れることとなり、運命の不思議さを感じる。飯田先生にこのことをご相談したら何とおっしゃるだろうか。「いろいろと考えてもしょうがないじゃないですか」と、一喝されてしまいそうだ。

安らかにお眠り下さい

冬が終り、春の息吹を感じるようになると、ふと飯田先生の文章を思い出すことがあります。私が生まれ育った九州では四季の変化はかろうじてあるものの、喜びをもって四季のうつろいを感じることはありませんでした。北国に来てそれを肌で感じることができましたが、それをさらに言葉の力で感じさせてくださったのが飯田先生でした。

今更ここで言うまでもないことですが、飯田先生は短大の学長をなさるとともに、幼稚園の園長先生をしておられました。そして学期ごとの園だよりに園長先生のメッセージを書いておられました。私は先生のお言葉を読むのが何より楽しみでした。僭越ながら少しここで紹介させていただきたいと思います。

春がきた

この頃の季節になって、道路のアスファルトのわずかな割れ目を押し広げるようにして、か弱い緑の葉が芽吹いているのを見つけたりすると、いつもロシアの文豪トルストイの小説"復活"の冒頭の文句を思い出します。『人間がひとつの場所に集まって、その土地を醜くしようといかに骨折ったところで、そこに何も生やさないと、いかに石を敷き詰めたところで、萌え生ずる草を一本残らず丹念に取り尽くしたところで・・・都会の中においてさえ、春はやはり春であった』という、あの名文句です。

1年は1月1日から始まりますが、年賀状に"賀春"などと書くように、1年はやはり春から始まる、とする方が自然です。雪が消えて、大地がくるぐるとしてきて、枯れ草がいつの間にか緑にかわり、木々の芽がふくらみ、梅が咲き、桜が咲き出す、などのさまには、まさに圧倒的な春の力を感じます。しかし、正確にはこれは春の力ではなく、春を迎えて、つまり暖かい太陽を迎えて、ほとぼり出る、地球上の生命の力なのでしょう。人間もその一部です。子ども達の心やからだにもそのような生命の力が、この時期には、みなぎってくるでしょう。健やかな成長を祈る思いや切です。

秋に向かって

いつもと違う、不順な、おかしな夏でした。ふつうは、「5月の新緑のさわやかな季節の後に、雨の多いうっとうしい梅雨がやってきて、その梅雨が明けると、急に夏になります。よく晴れた暑い日が幾日も続き、やがて土用になり、立秋になり、お盆がやってきます。うらめしいほど晴れわたった暑い日が続くなかにも、夕方の風や空の雲になんとか秋の気配が感じられるようになります。とかくするうちに8月が終わり、子ども達の夏休みが終わって、台風の季節になる」というのが伝統的な夏のイメージでした。

ところが今年は立秋になっても梅雨が明けず、気象庁はついに梅雨明け宣言を放棄してしまいました。エルニーニョ現象による異常気象なのだそうです。その上、8月4日には新潟は気象庁の観測が始まって以来の大雨に見舞われました。皆さんのお宅は大丈夫でしたか？わが家は床下浸水くらいで助かりました。

異常な夏の後にはせめて秋くらいは天高く馬肥ゆる候であって欲しいと思います。しかし、異常な現象が続くと、また何かあるのでは、と警戒心をもってしまうのが人情です。まだ手放して安心できる世の中ではなさそうです。そっと用心しながら、秋に向かっての子どもたちのすこやかな成長を期待し、見守っていきましょう。

学長と園長という激務の中で、また、お体の調子の芳しくない中で、周囲の人々を暖かく見守ってくださった飯田先生。私が短大を辞めることになっても、こちらの学部長によく言って下さったようで、赴任した折に、学部長から「新潟の学長さんからよく聞いてますよ。期待してますから。」と言われました。見事にその期待を裏切っているのですが、辞めていく人間にまで暖かい心遣いを下さった先生に心から感謝しております。

どうぞ安らかにお眠り下さい。

飯田先生は私が本学に赴任してきたときちょうど学長になられたばかりでした。大学人らしい方という印象で、教授会での判断も凜としておられ、最初から信頼感をもつことのできる先生でした。私は文学が専門なので、先生の文学者的な発想に共感していたところもあるかもしれません。あの『惑星ソラリス』の原作『ソラリスの陽のもとに』の翻訳者という面での先生は、遠いあこがれの存在でした。また、学長という立場でおられながらも、常に学者の雰囲気を失うことがなく、おっしゃること一つ一つの背後に、本学をいかに活気ある学問の場にしていくべきかという思想が垣間見える点をととても尊敬していました。短い期間でしたが、県短で先生と出会うことができたことを心から幸福に感じております。



学生の成長を願って

飯田先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

飯田先生をはじめ学生教職員が一体となって生協設立に向けて奮闘されていたとき、私は新潟大学生協で働いておりました。県立新潟女子短大生協に参りましたのは2000年の春で、先生は学長として忙しい毎日を送っていらっしゃいました。ですので、残念ながら直接お会いしてお話してきた機会はほとんどありませんでした。

しかし登坂さんや伊藤さんから聞いていた設立運動中の話、学生委員が作成している新入生歓迎冊子にお寄せいただいていたご挨拶文、設立5周年記念式典でのご挨拶からお人柄が伺えます。先生にとっては、学生が日々目に見えて成長することが一番嬉しかったのではないのでしょうか。社会に飛び立つ前のワンステップとして県立新潟女子短大に入学し、教養を高めて自らを磨き、積極的に社会に関わろうと努力している学生を、先生はいつも暖かい目で見守っていらっしゃったのではないかと思います。

何事もゼロから物事を作り上げるということは、大変なエネルギーが必要です。学生の成長を信じ、設立趣意書に盛り込まれた高邁な精神を糧に、飯田先生をはじめ学生教職員の惜しみない努力によって県立新潟女子短大生協は設立されました。そして設立後も学生教職員が協力し合って自らの生活を自らの力で変えていくという体験を、生協という「場」を通してできるようにしてまいりました。これからも設立趣意書の精神を大切に、学生がさらに生き生きと社会に飛び立っていくことができるよう、県立新潟女子短大とともに歩んでいきたいと思いをします。

接点 記憶

私の専攻は韓国語だった。2年次の他語学入門は中国語を選択した。選択したって、受講しているだけで先生と親しくなるわけでもないかも知れないが、受講する機会のないロシア語専攻の先生と話す機会などなかった。なんとなく大学生活を過ごしていたら、下手したら話す機会も無かったかも知れない。

私が2年生の時学友会の広報委員長をやっていて、当時学生部委員長の飯田先生とはだいたい月1回ほど、学友会との会議でお会いした。とにかく、苦い思いをした印象ばかりが残っている。私(達)の常識の無さ、貴重な時間を割いていただいているのに学生側の準備不足から話が進まないこと、などなど。その度に、飯田先生をはじめとする当時の学生部委員の先生方に渋い顔をされ、そして諭されて、学び、学友会の1年を過ごした。

学友会ではもう何年も学内にお店があったらね、という要望が代々受け継がれていた。(他、大形駅までの街灯設置などいろいろあった。ここ数年で実現していることもたくさんあるようだ。)当時の学友会で一番の成果はこの「店」を実現したところにあるかと思う。学友会は術を知らずに何年も要望を温めていただけだったが、飯田先生から生協を考えるという話を学友会に提案していただけたことは本当に良かった。

飯田先生と最後にお会いしたのは、設立5周年式典のときである。私は産後2ヶ月でかなり太っていた。波田野先生が私を見て「あ、いたいた。いまあなたどうしてるかなあって飯田先生といていたのよ。」とおっしゃった。私は『始まりからいたのになぁ...、飯田先生に会釈したのになぁ、わからないくらい太ったかな...』と心の中でいろいろ考えてしまったことを覚えている。そして(少々矛盾しているが)講義も取ったことのない私のことを思い出して下さったことにも嬉しく思ったことも覚えている。

2002年12月、私は県短に職員として戻ってきた。

飯田先生には1度もお会いできなかった。

私が存在すれば、私の記憶にある人はどこかに必ず生きている。

自分の父を幼い頃になくした私には、人がなくなるということをごどこか非現実にとらえたいと思う、甘えに似た気持ちがあるのかも知れない。

だからこそ衝撃は強く、しかし、どんな小さい思い出でも楽しく語れるのだと私は思っている。



第7集アンケート結果

「どこでもドアのかぎ7」で実施したアンケートの結果を掲載させていただきます。貴重なご意見をお寄せくださったみなさん、どうもありがとうございました。今後の参考にさせていただきます。

「どこでもドアのかぎ7」全体についてのご感想・ご意見

小・中学校の頃はよく本を読んでたけど、高校に入ってめっきり読まなくなっていたので、これを読んで、本を読もうという気になりました。いろんなジャンルの本が紹介されていてすごく参考になりました。私は本が嫌いでも今までぜんぜん読んでこなかったけど、短大生になったから少しずつ読んでみようと思っていたので、先生がすすめてくれる本の紹介はとても参考になりました。とても読みやすく、あらすじを読むことが好きな私には、おもしろかったです。普段は読まないジャンルの本が多くとり上げられていて、興味をひくものがあったので、これからは幅広く読んでみようかと思いました。

読みたい本が増えてよかったですと思います。

なんとなく開いてみたのですが、先生方がおすすめする本がのっているということで、興味深く拝見させて頂きました。次回もぜひ読ませて頂きたいと思いました。

おもしろかった。

沢山の先生からの本の紹介があり 私が知らない本も多くあったので、色々な発見ができてとてもよかったです。ただ、今回は国際教養からの先生が大半を占めていました。これを読んでいて、知っている先生が載っているととっても楽しくなるので、各学科(専攻)から、1人だけでもいいのでそれぞれ出してほしいなと思いました。

いろいろなジャンルの本が紹介されていたので良かったと思う。

題名だけでは読みたい気持ちにはならないけれど、コメントがついているので興味を持った本が沢山生まれました。

とても見やすく、先生方の言葉を1ページずつ読んでいくのがとても楽しいです。もっとたくさんの先生のオススメが知りたいです。各学科2名ずつとか・。

生活科学、福祉の先生の紹介がないのが残念だった。でも、たくさんの先生がたくさんの本の紹介をしてくれているのでよかったです!!

去年の「どこでもドアのかぎ6」よりもおもしろそうな本&読んでみたいと思う本が増えていた気がする。本選びの参考になるし、とてもわか

りやすく紹介されているので年1回の発行とはいわず、年3回位発行して頂けると嬉しいのですが。

この冊子を見て読みたくなかった本があったら教えてください。

マイナスイオン生活のすすめ

今話題のマイナスイオン、すごく気になります。私の部屋にも OA や電気製品が多くプラスイオンでいっぱいはず。ぜひ読んでみたいです。
味覚障害とダイエット 『知られざる国民病』の処方箋
味覚障害の原因を知らないし、味覚障害には絶対なりたくないのので、読んでみたいです。

白夜

めくるめくロマンスに巡り会いたくなった!

絵のない絵本

絵本って言うからには話の内容が簡単であったかそうだから。

白夜

サロメ

ジーキル博士とハイド氏

どれも世界的有名で、タイトルは知っているのですが、きちんと読んだことがなかったので、この機に読むのもいいかと思いました。

ジーキル博士とハイド氏

聞いたことはあるが見たことないから。

祭りの場: ギャマン ビードロ

理由は、大笑いしたのに、その後血の気が引いたという小谷一明先生の感想がすごく気になるから。どういことなのでしょうか・・・?

英語を学ぶなら、こんなふうに 考え方と対話の技法

絵のない絵本

今までは、本自体は知っていましたが、話の内容が分かりませんでした。でも、今回、それが分かったので、前から気になっていた分、読みたくなりました。

変身

名作だけに、やはり1度は読んでみたいです(安し)。

味覚障害とダイエット 『知られざる国民病』の処方箋

一人暮らしを始めて、食生活に気を配りたいと思っているから。

トニオ・クレエゲル

世界史でトーマス・マンを知ったのに、まだ読んだ事がないから。

変身

話の内容がとても気になります。

リング

映画を見るより、原作から読みたい。

子どもたちはなぜキレるのか

著者が「国語は体育だ」というのも、先生が「体育は国語だ」と言ってみたら・・・というも両方”言えてる！”と思ったから。

絵のない絵本

絵のない絵本

小学生の頃に読んだけれど、この紹介を見てもう一度読もうと思った。

肉食の思想 ヨーロッパ精神の再発見

自由・平等・プライバシーといった考えが、肉食パン食を中心とする西洋社会から生まれたという所が意外で、その理由や歴史的背景を知りたいと思ったから

他にどんな分野の本を紹介してほしいと思いますか。希望をお聞かせください。

料理関係の本。あと、小説なども紹介してほしいです。

小説をもっと紹介してほしい。泣ける話がよみたい。せっかく先生が紹介してくださるのだから、先生の専門分野に関するおすすりめがあればいいと思います。

自分が読む本は主に文芸作品、歴史ものなので、それ系をお願いします。最近話題になった本とか、賞をとった本など、あらすじを書いてもらうと興味がわきます。

小説。フィクションものを読みたいので。

絵本。良い絵本は大人になってもおもしろいと感じることが出来ると思うから。先生方が小さい頃に好きで読んでいた絵本とか知りたいかも。

気軽に読めるかんじの本

・大人向けの絵本 ・小さい子どもから高齢者まで、年齢を問わず楽しめる本 ・絶対泣ける }!!と叫びきれそうなくらい感動する本

推理小説

探偵もの、恋愛ものの短編小説は、時間をかけずに読めて感動するので、是非紹介してほしい。

普段本をよく読む人向けと、あまり読まない人がこれから読もうという向けの本があると嬉しいです。

おすすりめのまんが等紹介してもらったらうれしいです。あと、子どもの

ころに読んでいたとか、今子どもに読んであげているお気に入りの絵本の紹介
分野というか、県短の先生自身が執筆した本を紹介してほしい。けっこう本を書いている先生は多いのに、あまり自分で紹介することがないので・・。

その他、生協について、教職員委員会・学生委員会について、ご意見や要望があればお聞かせください。

特にありません。頑張ってください

生協は値段表示してない商品とかあって困りました。意外と高いものは高いけど、sale 品はとつてもたすかります。これからも良品を安価でよろしくおねがいします(^ ^)

いつもお世話になっています。これからも学生につかいやすい生協をよろしくおねがいします。がんばってください。

まだ学食を食べたことがないので食べに行きます！がんばってください(^ ^)

カップめんとお湯を出してほしい。

これからも頑張ってください。『どこでもドアのかぎ』の発行、ありがとうございました。生協について欲を言うと、もう少し文ぼう具の種類・数を増やしてほしいです。

これらの本を図書館の目立つところに!!置いてほしい。生協は本のスペースが狭くて、困ります。

いつも職員さんが優しく接してくれて嬉しいです。これからも頑張ってください!!

営業時間をもう少しのばしてほしいです。4時間目終わって15分後に閉まってしまうのは少しキツイです。教職員委員会、学生委員会についてあまりよく知らないのですが、いつもありがとうございます。

いつも思うことは、売店&入口が狭い!無理な要望だけれども、もっとゆったりしたスペースだったらいいのに・・。おかしやジュースは安いと思うけれども、パンや弁当はけっこう高い気がする・・。

「どこでもドアのかぎ8」アンケートのお願い

どこでもドアのかぎ・第8集の
感想をおしえてください。

以下のアンケートに記入して、生協店舗の
「一言カードボックス」へ！
抽選で50名の方に、500円分の図書券を
差し上げます。

締切 5月28日(金)

(キ
リ
リ
セ
ン
)

「どこでもドアのかぎ8」全体についてのご感想・ご意見を書いて
ください。

.....
.....
.....
.....
.....
.....

この冊子を見て読みたくなった本があったら教えてください。でき
れば理由もお願いします。

.....
.....
.....
.....

.....
.....
.....

他にどんな分野の本を紹介してほしいと思いますか。希望をお聞かせください。

.....
.....
.....
.....
.....

その他，生協について，教職員委員会・学生委員会について，ご意見や要望があればお聞かせください。

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

(キリトリせん)

所属 _____ 学年 _____ 氏名 _____

ご協力ありがとうございました。